

地域母子保健実習

ナンバリング:N4-S2-L12

責任者・コーディネーター	成育看護学講座 西里 真澄 講師		
担当講座・学科(分野)	成育看護学講座		
対象学年	4	区分/単位数	実習/2単位
期間	後期		

・学修方針(講義概要等)

妊娠期から育児期にわたる切れ目のない支援における助産師の役割とその実践について体験的に学修する。また、開業助産師の助産活動の実践を通じて、助産師の専門性発揮に向けたあり方や関連機関との連携の持ち方について理解する。具体的には、各自治体の保健センター等で実施されている地域母子保健の実践(家庭訪問、母子健康手帳交付、両親学級等)、職能団体が実施する地域母子保健活動および助産所での助産ケアの実践について学修する。

・教育成果(アウトカム)

妊娠期、育児期にある対象者と病院外の場合で会い、体験を通してそのニーズを知ることができるようになる。また開業助産師の活動を体験的に学び、助産師の専門性を発揮した具体的な活動内容と関係機関との連携の状況を知り、地域における助産活動の広がり、母子保健活動において今後求められる助産師の役割について考えることができるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

本科目は、本学部の以下のディプロマ・ポリシーに関連する。

1	医療人としての全人的人間性をもち、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る、謙虚な態度を持つ。
2	生命の尊厳と人間としての基本的権利を擁護し、人々の苦痛や苦悩を共感的に理解できる。
3	看護の専門職性及び看護の発展に貢献できる基礎的能力を持つ。
4	看護職者として、さまざまな健康上の課題に気づき、課題に応じて、創造的に看護を実践できる基本的な知識と技術を身につける。
5	患者との関係性のアセスメントを行い、看護を受ける人が自ら持つ力を高められるような援助理論と方法を身につける。
6	災害等の危機的状況においてもできるかぎり平常時と同様のケアを提供できるような構想力を身につける。
7	保健医療福祉システムの中で、多職種連携を図り、看護の機能と看護職者の役割を理解し、調整機能を果たすための基礎的能力を身につける。
8	コミュニティにおいて、医療職福祉職以外の人や機能と連携し、健康上の課題の解決に向けたネットワークが形成できるように看護職者の地域活動の機能を理解する。

・到達目標(SBO)

1. 住民の多様なニーズに対応した母子保健活動の実践をとらえ、地域における子育て包括支援の実践に参加し助産師の役割を述べるることができる。
2. 助産所での助産ケアの実践を体験的に学び、助産師の専門性を発揮した助産活動とその実現に向けた関連機関との連携のあり方を考えることができる。
3. 産前産後ケア施設での助産ケアの実践を体験的に学び、切れ目のない妊産婦・乳幼児への支援の展開を説明できる。
4. 母子保健活動において今後求められる助産師の役割について考えることができる。
5. 母子保健活動において、住民の健康の保持増進を目的とした保健・医療・行政との連携・協働について体験をふまえ、述べるができる。

・実習日程

日程	11/1(日)～11/24(火) ※うち10日間
担当教員	成育看護学講座 蛸崎 奈津子 教授 遊田 由希子 特任教授 西里 真澄 講師 高橋 淳美 講師
授業内容/到達目標	<p>【授業内容】</p> <p>1. 自治体 における地域母子保健の実際(家庭訪問、母子健康手帳交付、両親学級 等)</p> <p>2. 職能団体が実施する地域母子保健活動への参加</p> <p>3. 助産所、産前産後ケア施設での助産ケアの実際</p> <p>【関連するSBO】1.2.3.4.5 ※詳細は実習要項参照</p> <p>【事前学修: 1日当たり90分】 実習要項の目標が達成されるよう、実習記録の実習目標、実習項目を検討し、抽出した実習項目について目的、内容、留意点などを予習する</p> <p>【事後学修: 1日当たり60分】 実習からの学び、ポイントを実習記録に記載する</p>

・教科書・参考書等

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1] 妊娠期 第6版	我部山キヨ子 編	医学書院	2021
教	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2] 分娩期・産褥期 第7版	我部山キヨ子 編	医学書院	2026
教	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児期・乳幼児期 第6版	石井邦子 編 他	医学書院	2021
教	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版	我部山キヨ子 編	医学書院	2023
教	助産学講座10 助産管理 第6版	我部山キヨ子 編	医学書院	2022
教	根拠と事故防止からみた母性看護技術 第4版	石村由利子 編	医学書院	2026
教	助産業務ガイドライン 2024	日本助産師会助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会 編	日本助産師会出版	2025
参	産前・産後サポート事業ガイドライン 産後ケア事業ガイドライン(PDF版) https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/d4a9b67b-acbd-4e2a-a27a-7e8f2d6106dd/c9cfc841/20241030_policies_boshihoken_tsuuchi_2024_80.pdf	子ども家庭庁	子ども家庭庁	2024

・成績評価方法

【総括的評価】実習要項に記載している実習評価表に基づき評価する								
【形成的評価】面談や記録物などにより学修成果を確認する								
DP	SBO	小テスト	定期試験	課題	GW	実技	その他	合計
1～8	1～5						100	100
合計		0	0	0	0	0	100	100
〈備考〉								

・特記事項・その他

<p>【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】 提出された記録物等については、WebClassを用いて適宜コメントを伝える等、学生にフィードバックする。</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】 助産師(別表2):臨地実習 助産学実習</p> <p>【実務家教員担当授業の有無、実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連】 当該科目に関連する実務経験の有無 有</p> <p>医療機関や地域等で助産師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を行う</p>

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			

